

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
学校教育目標 自ら学び、生き生きと表現する 心豊かな子どもを育てる めざす子ども像 ◇思いやりのある子 ◇進んで学び合う子 ◇思いを伝え合う子	人と人とのつながりを育てながら ・学力の充実…基礎基本、聞く・考える・伝え合う(学習規律) ・生活の充実…あいさつ・きまり・そうじ(生活規律) ・人権教育の充実…一人ひとりが大切にされる仲間づくり ・特別支援教育の充実…個のニーズに応じた支援 ・家庭・地域との連携の充実

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(小学校) ○国語A、B、算数Bで県平均と比べると正答率が低い。 ○算数Aはほぼ県平均と同程度である。 ○国語Aを除き、無解答率が県平均に比べると高い。 ○正答数分布グラフを見ると、国語A・B、算数Bで上位層が少なく、中位層から低位層にかけて分布が多い。 ○次の設問では全国平均を上回ることができた。 漢字を書く(きぼう者)→本校85.7%(県83.3%) 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる(「きつねの写真」から条件に合わせて)→本校51.4%(県45.3%) 60×0.4を、60×4を基にして考えるときの正しい積の求め方を選ぶ→本校97.1%(県92.7%) 6+0.5×2→本校80.0%(県78.4%) 5÷9の商を分数で表す→本校85.7%(県77.0%) 県(3~5年) ○国語4・5年の正答率は県平均とほぼ同程度だが、3年の正答率が県平均を大きく下回っている。 ○算数3~5年の正答率は県平均を下回っており、課題がある。特に3年の課題が大きい。 ○特に課題が見られたところは、次の通り。 国語…3~5年とも領域では「書くこと」、問題内容では条件に合わせた「作文」 さらに3年は、「物語の内容の読み取り」 算数…3年「かけ算」「長さ・かさ」、4年「長さ・重さ」「大きい数・小数・分数」、5年「折れ線グラフと表」「計算の決まり・変わり方調べ」	【学習状況調査の結果】 ○家庭での学習時間(1時間以上)の割合が県平均に比べて少ないが、約60%は1時間以上取り組んでいる。 ○全く家庭学習をしない割合が県より高い。特に土日に全くしない~1時間までの割合が高い。 ○平日にゲームを2時間以上する児童の割合が約50%もあり、県・全国平均よりはるかに多い。 ○平日にテレビを2時間以上見る児童の割合が約60%もあり、県・全国平均より多い。 ○普段30分以上読書をしている割合が県・全国平均よりかなり少ない。また、図書室をほとんど利用しない割合が約50%もある。 ○先生に自分のよいところを認めてもらっていないと感じている割合が県・全国平均より大変高く、約30%もある。 ○学校のきまりを守っている割合は極端に県・全国平均を下回っている。 ○5年までの授業について、発表の機会が与えられていた・話し合い活動があったなどと感じている割合が県・全国平均より少ない。 ○「国語・算数の勉強は好きだ」という項目は、県・全国と同程度の割合である。 ○地域の行事に参加している割合は県・全国平均を上回っている。 ○県の生活行動・学習活動調査によると、あいさつをしているという児童は87%が多いが、県平均よりわずかに下回る。

成果	課題
○算数Aでは、かなり平均に近づいており、基礎・基本の定着が図られつつある。 ○5年生は落ち着いた学校生活を重ねてきた学年であるが、その学年の学力は、県・全国平均とほぼ同程度となっている。 ○漢字テスト(河内オリンピック)を年間計画に沿って実施しているが、漢字の読み書きが定着しつつある。 ○放課後の補充学習を週2回(月曜4~6年、火曜2~3年)行い、授業以外の学習習慣をつけた。	○国語、算数ともに活用型の問題を苦手としている。 ○文章で解答する問題に対して無解答率が高く、条件を満たして書くことができない。 ○算数では、学習したことが定着しないまま、わかった気になって終わっている児童が多いと考えられる。 ○低学年での積み上げに課題がある。 ○子どもが考えを伝えたり、話し合ったりする機会が不足している。 ○自己肯定感が低く、暮らしが前向きになれていない割合が高い。 ○家庭での暮らし方に課題が大きい。家庭学習の時間・ゲームやネットと関わる時間。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
国語の授業で自力解決・伝え合う・深める共通のスタイルをつくる	今年度中に	1年から6年の各学年の物語・説明文の単元で授業スタイルを確認する。	岡山県学習スタンダードの徹底。校内研修の中で共通理解を図る。2~3学期の公開授業等を通して、実践する。新出漢字・語彙調べ等の学習は単元の初めに済ませ、読解に十分な時間を確保。	* 授業通信により好事例を紹介 * 校内研修で授業づくり共通理解 * 秋チェック5年国語A全国上回る * 5年生学習状況調査結果、「ふり返る活動をしている」率より+32.7%	A	* 低学年部での公開授業を通信等で紹介したり、校内OJTとして活躍にしたりして、好事例を共通理解した。 * 着ち着かない状態の学年もあったが、年1回の公開授業がほぼ実施できた。	A	* タイムリーな授業通信等、校内OJTが得意な雰囲気をつくる。 * ミニ研修を含め、実践に合わせた研修や協議を積極的に取り入れる。 * 公開授業を年1回以上行う。
低学年での積み上げを強化する。	今年度と来年度で	1~2年生 来年度・再来年度の3年生の国語・算数の正答率を全国平均に近づける。	各学年の重要事項は繰り返し学習に取り入れる。徹底的に音読・暗唱・計算練習などに取り組みさせる。1年生から基礎を示して考えを伝える授業づくり。データベースを使って補充学習。	* 低学年での重要な学習内容を研修等で確認 * 秋チェック1~2年版も実施し、習熟状況を確認	B	* 加減・乗法の計算プリントを繰り返し実施し、定着を図った。 * 説明文の授業スタイルの共通理解を図る公開授業・研究協議を行った。自力解決・深める発問等、主体的対話的授業の実施できた。	B	* Bトレプリントを全校で使い、各学年でつけるべき力を意識した年間の指導や、結果の交流がしやすい校内環境をつくる。
家庭学習の定着	今年度中に	1年から6年の各学年 学年×10分+10分の家庭学習 自主学習など、進んで学習	うさかめカードによる学期2回の家庭学習とメディアチェック。週末課題など、自分で工夫したり、調べたりする必要のある家庭学習の工夫。本校の実態・家庭学習の効果など保護者への啓蒙。家庭との連携を密にする。	* 懇話会等で保護者への協力要請 * 週末チャレンジを実施し、良い解答例を掲示し紹介 * 5年生「平日1時間以上」率より+11.5%「週末1時間以上」は+1.4%	B	* 週末チャレンジを繰り返し実施し、問題文や資料を正しく読み取り、必要な言葉や図を使って解答できる児童が増えた。良い解答例を掲示し紹介した。	B	* 家庭学習の手引きを改善し、さらに家庭に協力してもらいやすくする。 * 週末チャレンジ等、ドリル的でない書く内容の課題も継続して

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○県・全国学力学習状況調査の分析を基に教科学力の向上を目指した授業改善の取り組み(系統だった指導方法) ○チャイムスタート・無言入場などを中心に、規律ある授業づくりを目指す。 ○学習意欲の向上と理解の定着を図るために、学び合いを積極的に取り入れる。 ○小中間による授業公開並びに見学生徒の情報交換を行う。	○家庭学習のスタンダードを基に学級懇話や個人懇話なので呼びかけると共に、教員・児童両面からの意識調査を行う。 ○ノーマディアの取り組みを家庭を巻き込んで行う。 ○うさかめカードの取り組みを活用して親子で触れ合う時間を設定する。